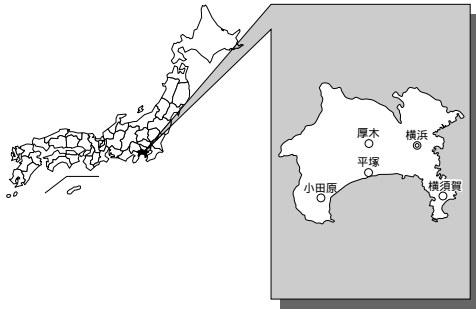


# 土木紀行

## 横浜港発祥の地の歴史をたどる

### ～象の鼻地区 象の鼻パーク～

#### 神奈川県横浜市



## 1. はじめに

横浜港は安政6（1859）年6月2日に開港し、平成21（2009）年に開港150周年を迎えました。横浜港は開港当初からわが国最大の貿易港としての役割を担う一方、人や物の国際交流を通じて西洋文化や文明を取り入れる窓口でもあり、その横浜港の中心として重責を担っていたのが、横浜港発祥の地「象の鼻地区」（図1）です。

横浜市は開港150周年記念事業として、横浜港の歴史を積み重ねてきた「象の鼻地区」を歴史と未来を繋ぐ象徴的な空間とすることを目指し、再整備を行いました。

「象の鼻地区」とは

横浜港は、開港に当たり2本の直線状の突堤が造られ、その後1867年東側の突堤が湾曲した形に変更され、その形が象の鼻の形に似ていることから「象の鼻」と呼ばれるようになりました。

象の鼻地区は、この防波堤と、波止場として使われてきた周辺の陸域とに囲まれた水域を指すものです。地区の施設形状は震災や戦災で変わってきているものの、開港当時のスケール感が残っている点で、わが国の港の歴史を振り返る上でも貴重な存在となっています。

## 2. 象の鼻パーク再整備事業（図2）

### (1) 事業概要

面積：3.3ha（地区面積：約4ha）

所在地：中区海岸通1丁目

事業期間：平成18年～平成21年（第1期整備）

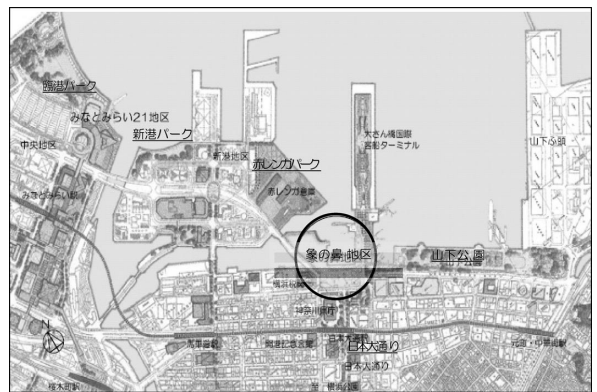


図1 象の鼻地区位置図

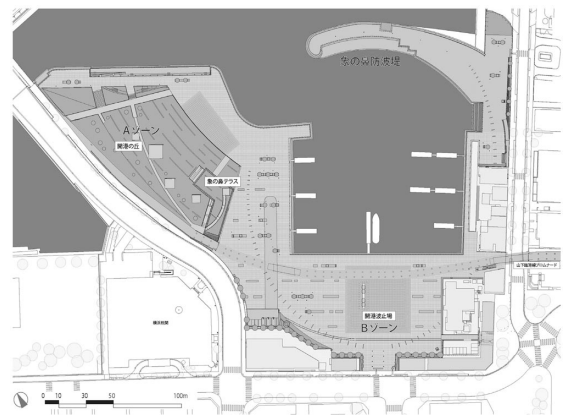


図2 象の鼻パーク整備図

### (2) 再整備事業の経緯

- 昭和57年 港湾計画に位置付け
- 平成16年 開港150周年事業として再整備決定
- 17年 基本構想とりまとめ・市民意見募集
- 18年 基本計画策定・護岸改修工事着手
- 19年 防波堤整備工事着手  
緑地整備工事着手
- 20年 象の鼻テラス建築工事着手
- 21年 象の鼻パークオープン

### (3) コンセプト

基本理念を「時の港」とし、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的空間を整備することを目標に、計画づくりを進めました。

## 3. 歴史的港の遺構の活用

象の鼻パークは港の歴史が感じられるよう、象の鼻防波堤を明治期の形状に復元整備するとともに、工事中に発見された港の遺構を積極的に保存活用しています。また解説板などにより、象の鼻地区の歴史なども紹介しています。

### (1) 港の貨物船の鉄軌道と転車台(写真 1, 2)

開港波止場中央付近を整備している時に発見されたものをそのままの位置で保存・展示しています。明治20年代に整備され、岸壁から横浜税関の輸入上屋への荷役を担っていました。

### (2) 石積み防波堤他

整備中に発掘された関東大震災で沈んだ旧防波堤の石積(写真 3)を見ることができるよう工夫したほか、横浜港の景観を360度見渡せる新たなビューポイントとして、防波堤の先端まで散策できるようにしました(写真 4)。

## 4. 夜間演出

復元後の防波堤の曲線を活かし、一定の間隔で配置されたスクリーンパネル(写真 5)が、地区全体にわたる大きなサークルを描き、地区全体で美しく魅力的な夜景を演出するシンボル空間を形成しています。

## 5. おわりに

象の鼻地区再整備事業は、昭和57年の港湾計画への位置付けから、象の鼻パークのオープンまで、実に多くの方が携わってきました。横浜港発祥の地は象の鼻パークとして生まれ変わり、横浜開港150周年の開港記念日に当たる平成21年6月2日にオープンを迎えました。当日は天候にも恵まれて約5万人の方が来場し、記念式典やライブなどさまざまなイベントが開催され、来園者の



写真 1 発見時



写真 2 工事中



写真 3 石積み防波堤



写真 4 象の鼻防波堤全景



写真 5 スクリーンパネル夜間照明

方々に楽しんでいただけました。今後も象の鼻パークが末永く市民や観光客の方々に愛される場所となるよう願っています。